

令和7年度2学期終業式式辞

皆さんには「座右の銘」がありますか。

「座右の銘」とは、「自分を励ましたり戒めたりする言葉」のことです。

ピンチの場面や、失敗して落ち込んでいるとき、ある言葉が支えになった、そんな経験はありませんか。その言葉こそが「座右の銘」です。

私の「座右の銘」を2つ紹介します。

1つ目「朝の来ない夜は無い」です。どんなに暗く冷たい夜も、必ず明けるときがくる、朝はやってくる。つまり、どんなに苦しく絶望的な状況であっても必ず終わるときがくる、そのことを教えてくれる言葉です。これに救われたことが何度もありました。

2つ目です。皆さんはどうにも腹が立って、相手をやっつけよう、こらしめてやろうと思ったことはありませんか。これは、憎しみに我を忘れたとき、心を鎮めてくれる言葉です。「憎むな、殺すな、赦（ゆる）しましょう」

これ昭和30年代（1958～59）にテレビ放映された「月光仮面」の原作・脚本を担当した川内康範（かわうちこうはん）という人の言葉です。「憎むな、殺すな」までは勢いがあるのだが、最後の「赦しましょう」でなんか気が抜ける不思議なフレーズです。

「殺すな」は置いておいて、「憎むな」「赦しましょう」。言うは易く行うは難（かた）しです。ひどい目に遭わされた相手を憎まない、これがどれほど難しいことか。はっきりいって無理です。赦すに至っては冗談じゃないという感じです。

しかし、この気の抜けた「赦しましょう」の言葉が、エスカレートする憎しみにブレーキをかけてくれます。

人間は、怒りや恐怖や焦りや絶望の感情にとらわれたとき、疲れてしまったとき、いくつもあるはずの解決法、選択肢に思い至ることができなくなります。そんなときたった一つの言葉が支えてくれる、希望を与えてくれる。言葉の持つ力の大きさを感じずにはられません。

今年は地震、津波、またクマ出没等、様々な天災地災人災に見舞われ、災害に対する準備の重要性を考えさせられた年でしたが、「座右の銘」というのはいざというときに心を支える強力な防災アイテムでもあるように思われます。

ぜひ皆さんも自分にとって防災アイテムとなる「座右の銘」を見つけてください。

それではみなさん、良いお年をお迎えください。

令和7年12月22日

校長 伊藤文一